

調 査 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20 年11 月 21 日 開始 9時 00分 ～ 終了 14時30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム こぼれ陽 (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏 名 腰 高行 氏 名 藤田 泰洋
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 向井 マツ子 ヒアリングを行った職員数 (3)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考になしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 2008年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4679200099号
法人名	有限会社 こぼれ陽
事業所名	グループホームこぼれ陽
所在地	〒891-7611 鹿児島県大島郡天城町天城烏組783番地 (電 話) 0997-85-4073

評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成20年12月20日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	5 人	常勤 4 人、非常勤 1 人、常勤換算 4.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,500 円		その他の経費(月額)	3,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,080 円				

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数		6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1		0	名	要介護2	1	名
要介護3		3	名	要介護4	1	名
要介護5		1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	88 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳之島徳洲会病院	天城歯科診療所
---------	----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を建増して共同住居にしたグループホームの原型ともいえるホームである。管理者が信じている生き方や信条を、無理なくさりげなく、利用者の支援に活かしており、利用者も職員も家族的な結びつきとなっている。特徴的なことは、定員が6名と少数なこと、待機者を持っていないこと、現在の入居者を重度化から終末の看取りまでを実施していることである。細やかな支援で行動障害をできるだけ減少させ、黙想という独自の取り組みをしているパーソンセンタードケアのホームである。
--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題は特になかった。 職員全員で自己評価に真摯に取り組んでいる。気づいた点は、朝の勉強会で話し合っ、パーソンセンタードケアの考えで改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) ホームの状況報告のほか、町の担当者や包括センターの保健師から、後期高齢者医療制度や新しい制度の説明を受けるなど、家族や職員の参考になっている。また、認知症の人への接し方などの話しなどを、認知症支援の啓発を担っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 家族が日常的にホームに来所しており、意見をいいやすい関係ができています。意見や要望は毎日の勉強会で順次取り上げている。運営推進会議で意見を出す機会もあり、他のホームでの意見も情報提供している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ゴミ出しのときなど、散歩を兼ね近隣の人と挨拶を交わしている。また、委託を受け、町の宅配食を近くの高齢者宅に利用者と一緒に届けるなどの交流がある。近隣とは垣根なしで付き合い、幼稚園や小学校の行事にも出かけている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者の信条を基盤とし、地域の中で幸せに暮らせるように努める理念を、職員で話し合って作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や利用者とともに行う黙想で、理念の意味を掘り下げている。一人ひとりとしっかり向き合い、目の前のひとりの入居者を大切にする支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣とは垣根なしで付き合っている。ゴミ出しなどのとき、散歩を兼ね近隣の人と挨拶を交わしている。また委託を受け、町の宅配食を近くの高齢者宅へ利用者と一緒に届けるなどの交流がある。幼稚園や小学校の行事にも出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に真摯に取り組んでいる。気づいた点は、パーソンセンタードケアの考えで改善に取り組んでいる。防災の近隣の協力体制については検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告のほか、町の担当者や包括センターの保健師から、後期高齢者医療制度や新しい制度の説明を受けるなど、家族や職員の参考になっている。また、ホームからは認知症の人への接触の仕方などの話があり、認知症支援の啓発を担っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、町の委託で在宅認知症高齢者の訪問をしたり、町主催のケア会議の議長をしている。町の担当者とは事業を通じて行き来があり、連携が密である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとの写真集があり、訪問時に見てもらって暮らしぶりを報告している。健康状態もそのとき報告している。金銭は預かっていないが、入居者で持っていて支払っているの、それを見守っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が日常的に来訪し意見をいいやすい関係ができています。意見や要望は毎日の勉強会で順次取り上げている。運営推進会議でも意見を出す機会があり、他のホームでの意見も情報提供している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は居心地がよくほとんど離職者がいない。職員への気配りや入居者への支援が、個々の状況や思いに沿って配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	短時間でも毎日勉強会をしており、事業所内研修が充実している。島内の研修会はもとより、関連研修にも積極的に参加している。資格取得支援もしていて、必要な資料の収集や活用も充実している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内のグループホーム間で、職員の交流と勉強会を行っている。県のグループホーム実践者の実習受け入れも行っており、共に学びあっている。職員は積極的に学ぶ意欲がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問して話したり、本人に来てもらって顔見知りになるようにしている。徐々になじめるように、入居はじめは家族の協力をもらっている。本人の居場所である椅子の位置などを、雰囲気に馴染むように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごし支えあうということが、理念の根幹になっており、職員はよく理解している。人生の先輩として、何事においても学ぶことが多いという意識である。相手を変えるのではなく教えていただく姿勢で支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務をこなすという次元から脱却し真のケアをしている。業務を追っかけない、パーソンセンタードケアで、本人と職員の気持の確認を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・主治医と話し合っ、パーソンセンタード方式の個人情報記録を作成し、どの職員でも利用者のことが解るようになっている。ケース検討会で職員の意見を参考に、本人に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は日常的にまるごととらえたケア記録を行い、その記録がケアのチェックとなっており、これに基づき見直しをしている。期間に応じた見直しの計画ができてい。入院などの変化に応じて見直しもされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
kirokuga					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、医療面の支援は充実している。通院支援や補装具相談・結婚式の参加などの特別な外出の支援をしている。また、船に乗って島外に1～2泊の旅行も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の承諾で、かかりつけ医での受診を支援している。いつでも駆けつけてもらえる医師との連携が常に取れており、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、重度化や終末期でも対応することとしている。ホームの技量を最大限尽くして最後まで看取るということを、主治医と職員で共有している。家族から、看取りに関する同意書をもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	このホームで取り組んでいるパーソンセンタードケアにより、利用者中心に個の尊厳に基づく支援をしている。個人情報の漏洩防止も図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にスケジュールに基づく時間は、朝のお茶の時間にみんなで顔をあわせる時で、起床・食事・就寝などは希望や身体状況に応じた支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に、楽しみながらゆっくりと食事をとっている。畑の果物や野菜・ハーブなどを食事に取り入れ楽しんでいる。入居者の状況や技量などに応じて、一緒に準備や片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は自由であり、夜に入る入居者もいる。よもぎやいろんな葉草入りの風呂を楽しんでいる。順番も意思を尊重して対応し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、掃除や洗濯物たたみなどの役割をさりげなくしている。ゲートボールや草木の手入れ・散歩・遠足・ドライブ・島外旅行などの気晴らしや楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は自由でよく外に出かけている。毎朝の散歩や買物・ごみ出しなど一緒に出かけるなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム全体が開放的で、入居者にとって出入り自由である。職員はホームに鍵をかける弊害を理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地区消防団と連携して、消火・避難訓練を実施している。台風時の食料、水の確保はされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについて、栄養士が目安を立てている。3食確実に摂取することや水分を十分に取ることが、行動障害を防止するポイントとしており、常に把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や他の共用空間はゆったりして落ち着いている。庭の草花や裏の畑からのいろいろな果物・薬草などの自然の香りに包まれている。テーブルや椅子など居心地よく過ごせるように配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造したホームであり、住み慣れた自分の家みたいな居心地のよさがある。本人が使っていた椅子やタンスを利用している。		